

第14回議 空港とゴミ袋の問題が焦点



市連合婦人会(浜田弥芳会長)の第十四回市政会議は二月十八日、市役所大会議室に市内各地区の婦人代表約七十人を集めて開かれた。当日は杉本市長、門田助役ら市執行部、土居議長ら市議会議員六人も出席。各地区の婦人からとったアンケートの中から主婦らしいきめこまかな質問が出た。

「なんでこんな世の中になつたらう。今回も空港問題には公聴会以後の経過についての不安感からたつぷり時間をとって市長、議長に質問が集中した。」

まず浜田連合婦人会長が「出さされているアンケートの中には市長への手紙とだぶるものやすでに解答いただいているもの、広報などで周知されているものもありますが納得いかない婦人のために重ねて解答してほしいと思います。」と

弱者と腕組むが

民主主義だ

開会のあいさつ。そのあと杉本市長が「昨年この席でみなさんと会ったときは、私も複雑な行政の中に飛びこんだ時で、きわめて印象が強かった。どんな質問でも結構です。実のある会にしていきたい。」とあいさつがあり、まず空港拡張問題とゴミ袋の無料化問題に質問が集中した。

問い・空港拡張のその後の経過はどうなっていますか。私たちの知らない間に話が進んでいるのではとの問いに答えて市長が経過の説明。

問い・よくわかりました。新聞で学者が集まって研究すれば騒音も少なくなると出ていた。おどかさされているようで心配になる。日本人はデマに弱いといわれる。杉本市長は市の財政がゆきつまつ

たので賛成に傾いているらしいと聞いた。そういうデマは反対している者にとつてさしざわりになる。その点、明確にしていきたい。市長・「市長は弱腰だ。先頭にたつてやれ」という意見もたびたび聞きます。急進的な考え方もありますが、市全体として慎重に考え、あやまりのない行動をしたい、と申したので弱腰という印象を受けたのかも知れない。

一人や二人の犠牲者が出てても全体のためなら仕方ないというの全体主義の考え方は、弱者と腕をくんでやってゆこうというのが民主主義でありその考えにたつて私は反対している。一人や二人の犠牲者が出てても、という考えがまだ南国市にはあると思うんです。だからそれが正しいかを証明する、民主主義を定着さすかささないかという一つの場になつている。しかしだんだん日章、田村だけの問題でないことが理解されてきていると思う。みんなの力を総結集して市民を守り、郷土を守りたい。

問い・食糧危機が目前にきている。農林園芸課では農地を守るためにどういうことをされていますか。成田空港でも、もう何年も前に土地を売った農家が、どういふように生き、生活を支えているかを考えた場合、土地を手離すことは農

民には死の宣告と同じです。課長・私たちが農地を確保したいと思つていますが具体的手だては現在のところありません。申し分けないと思つています。今後、農林園芸課として総力をあげて取りくみたいと思つています。

問い・知事や市の賛成の議員さんは県民のためだとかおっしゃいますが、拡張されるとどんな利益があるか、一つでも二つでも例をあげてお答え願いたい。

議長・議会は何も賛成していません。議会が反対の陳情を不採択にしたという事は権限のない事項ですから市議会に請願すべきではない、国の仕事だから県議会にしてくれと言つたが、取り下げられなかつたのでやむを得ず不採択にせざるを得なかつた。不採択にしたから賛成であるということにはならんわけです。

時代の進展により飛行機の利用者をまかないきれんという状態になつていから、それを解消するために大型機を入れ、一時の騒音は激しくなるかもしれないが、それにかえる諸施設をして、市民というよりは県民のために道を開くことが目的ではないかと思つ。

どんな利益が

拡張に

それによって、どれだけ増えるかわからないが、ガソリン税が多少入るだろうと思う。騒音のために地元が反対するのは無理もない。根本的に議会が賛成しているという考えの間違いからさういふ質問が出るのではないかと思つています。

全国の空港調査し

権限ないとは

問い・請願書の不採択について、市民連合の方に言わすと、議会は全園のほとんどの空港を見に行つたあげく権限がないとして不採択にした。不採択にした時の議会は私も傍聴しましたが、拡張反対の

意見はすいぶん出ましたが賛成の討論は一つもありません。それでいて投票した結果は不採択になつたわけでした。そこに納得いかないう所がある、と言つていました。「利益」について、県へ観光客が多く来るから拡張したらよいとか、騒音があれば地元の人が反対するのも無理はないといいますが騒音ばかりではありません。公害のほかに農地がつぶれ、二度目の移転をしなければならぬ人もすいぶんいる。私のような老人は新聞をみるたび、飛行機が頭の上を通るたび、「おお、寿命が縮むよ。こんな世の中になつたらう」といつつも思つてます。

問い・空港拡張のその後の経過はどうなっていますか。私たちの知らない間に話が進んでいるのではとの問いに答えて市長が経過の説明。

問い・よくわかりました。新聞で学者が集まって研究すれば騒音も少なくなると出ていた。おどかさされているようで心配になる。日本人はデマに弱いといわれる。杉本市長は市の財政がゆきつまつ

第十三回「市教育研究大会」

盛会裡に終る

宿毛から室戸から、市外参加者百名を加え、四百五十名参加

市教育委員会・市立教育研究所主催の「第十三回教育研究大会」は、二月七日、大塚小学校、中央公民館・市民体育館を会場にして開かれ、午前中は、研究所研究員による各教科ごとの研究授業と分科会が行われた。

午後には記念講演が行われ、小砂丘賞・平和文化賞・ベスタロッチ賞の受賞者、東井義雄先生の二時間に行わたる講演「今、何をどのようにに——ほんものの教育を求めて——」があり、参加者に大きな感動を与えた。

十三年の歴史と伝統を加えたこの研究大会は、県下にも注目を浴びている会で、市内小学校教員全参加の幅広い研究活動と、一年間の積み上げのもとに行われるものである。今回の特長は、幼児教育の面で百名の市内保育さん方の参加があり、幼・小・中一貫した研究が行われたことや、従来市外からの参加者は二、三十名であったが、今年は百名を数え、ますます県下の注目を浴びる研究大会となつたことなどがあげられる。

ゴミ袋は

個人負担に

問い・ゴミ袋の無料化で自家処理できる人まで袋に入れて出したり乱用している。大きな袋の底にひ

と並べ出している家庭もある。すべて、無料であるから貰わなければ損だという考えから出てきている。経費の無駄を他の面に使つてほしい。

問い・袋代の無料化で川がどんなにかきれいになるかと楽しみにしていた。しかし後免の裏を流れる川はどうでしょう。以前と同じで汚ない。袋代が十八円に下つたといいますが十八円でも集まれば大金になる。

問い・私の所の川は大根も洗えるほどきれいになりました。

市長・この一年間、議会も含めて対話集会などで地域に出ていってゴミ袋の問題が出なかつたことではない。しかしありがたいと思つるのは、単に反対というのでなく、無料化はいいが財政が大変だから有料にしてはどうか、私たちが袋代を出すという配慮から出てくることです。「私たちは自家処理できる袋は返します」という人がたい手紙も多い。そういう人の善意を裏切つてはならない。五十年、二千万円ぐらいいりますが無料化にして声を聞き、検討を加えたいと思つています。

そのほか、教育行政、公営、福祉、建設、税などにたくさん意見が出された。

●みんながおとしよりと、子供を大切にする南国市にしましょう